

本業を通じて社会に貢献するだけでなく、  
直接的な社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

### CSRへの基本的考え

SBIグループは、社会正義に照らして正しいことを真正面から事業化し、実践している企業集団です。その根底にあるものは、儲かるかどうかではなく「私たちの社会を公正で、快適で、環境適格的で、安全なものにしたい」という信念です。そして本業のみならず、直接的な社会貢献によってもステークホルダーの要請に応え、社会の維持・発展に貢献することで「強くて尊敬される企業」を目指します。

### 直接的な社会貢献

公益財団法人SBI子ども希望財団：同財団では、SBIグループが培った知恵とネットワークを活用し、虐待された児童たちへの自立支援や児童福祉の充実に取り組んでいます。2010年に内閣総理大臣から公益財団法人として認定された同財団の活動は、虐待児童入所施設の状態向上への寄附や児童養護施設の職員に向けた実践研修の提供、一般市民向け啓蒙活動等、多岐にわたっています。2016年3月期までの累計寄附実施金額は約9億7千万円となりました。またSBIグループでは、児童虐待防止の「オレンジリボン・キャンペーン」を後援しており、役職員一同、啓発活動に取り組んでいます。

SBIウェルネスバンク：会員制健康管理サービスを提供する同社は、医療法人社団T.O.P.ドクターズ東京国際クリニックの運営を支援しています。同院では、内科全般・歯科・形成外科等幅広い分野にわたり、プレミアムな人間ドックや最先端の医療技術による治療サポートをはじめ、安全で質の高い医療サービスを提供しています。同院との連携により、「予防」「治療」「エイジマネジメント」の3領域からトータルなパッケージを提案し、人々のより積極的な健康管理に貢献しています。

### CSR活動の歩み

2002年1月

基本方針を決定

当期純利益3億円以上を計上したグループ各社は利益の1%を児童社会福祉法人へ寄附。

2004年7月

寄附活動本格化

多くの都道府県から賛同を得て、各自治体所管の児童養護施設・乳児院等へ寄附金を謹呈。

2004年12月

SBI児童福祉有限責任中間法人設立

日本初の試みとして、証券市場を活用した幅広い寄附活動を展開。

2005年10月

財団法人SBI子ども希望財団設立

児童福祉の充実や向上に寄与することを目的に設立。

2008年4月

SBI大学院大学開校

文部科学省より認可取得し、社会に活力をもたらす「有為な人材」を育成するべく開校。

2010年3月

SBI子ども希望財団の公益財団法人化

内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受け、公益財団法人へ移行。

### 事業を通じて社会に貢献するSBIエナジー

発電事業を通じて環境保全と地域振興に取り組む

「化石燃料の時代は終わり」を告げ、世界的に再生可能エネルギーによる発電が年々増加する一方で、日本では環境保全や地球温暖化対策への関心の高まりから注目はされているものの、まだその活用は発展途上と言えます。しかし、歴史的にみて古くから水力発電が行われていること等から再生可能エネルギーの活用は今後ますます拡大するでしょう。このような中、2015年11月に再生可能エネルギーによる発電事業等を行うSBIエナジーを設立しました。

現在SBIエナジーでは、主に小水力発電や地熱発電に取り組んでいます。これらは昼夜問わず独立して安定的に発電できるため、災害時の非常用電源として利用可能です。地域資源を有効活用したエコで安全なまちづくりなど地域振興に貢献するべく、発電所を設置する地域には、災害時に利用いただける移動式給電装置や携帯バッテリーを寄贈する取り組みを進めています。



SBIエナジー(株)  
代表取締役社長

中塚 一宏